

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築	NO	2-8
事業名	自然環境学習推進事業		
事業費	1,485 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課

1 目的

副教材や野外活動の手引き等の提供により、小学生等の森林や自然環境に対する理解の向上を図る

2 事業概要

森林環境学習を実践するための副教材等の作成と提供

3 実施状況

① 副教材「やまがたの森林」、指導者用ガイドブック「やまがたの森林」解説編
 小学校5年生の社会科の授業等で活用できるようにするため、森林と人とのかわりや森林の働き、身近にある森林として各地域の森林を紹介
 ・ 副教材11,000部、ガイドブック1,100部を作成し、小学校5年生の全児童及び担当教諭等に配布（8月）

② ポケット版「森のたんけん手帳」
 子供たちが森林に入って野外活動を実施する際の留意点や、五感を使って森林に親しむ遊び等をわかりやすく紹介
 ・ 各みどりの少年団、4つの県民の森、各市町村、森林研究研修センター各総合支庁森林整備課、5つの少年自然の家等に配布（7月）
 ・ その他要望等を受けて、適宜小学校や環境学習実施団体に提供

4 課題・対応

活用状況のアンケートを参考に、活用をさらに促すための手法を検討する

（副教材・ガイドブック）



（森のたんけん手帳）



項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わり構築	NO	2-9-1
----	-----------------------	----	-------

事業名	里山の森づくりサポーター育成事業		
事業費	126 千円	担当部局課	村山総合支庁 森林整備課

1 目的

多様化する県民の森利用者の要望に対応できる体制を構築するため、施設内の案内及び体験活動などを支援する指導者（以下、森の案内人）を新たに募集し、森の案内に必要な知識・技能に関する研修会を開催した。

2 事業概要

県民の森の安全で、かつ、楽しい活動の支援・案内ができるスキルを習得するため、次の項目について学んだ。

- ①県民の森の概要
- ②森林に関する基礎知識・森林の機能
- ③森林活動の安全管理及び緊急時の応急手当て
- ④森の案内の基礎知識と実践スキル
- ⑤木工クラフト実習

3 成果と課題

【成果】

- ・ 県民の森周辺市町から森での活動に興味のある県民が参加した。
- ・ 今回の研修会を修了し、「県民の森」森の案内人として3名が登録された。

【課題・対応】

- ・ 児童生徒数の減少等に伴う「県民の森」の年間利用者の減少（平成27年度は約129千人）。
 - 県民の森活動の普及広報
- ・ 県民の森の施設のうち、利用状況に偏りがあり、む・う・ぶ等の施設利用の活性化が必要（家族連れを含めた若年層の利用者のほとんどは広場やフィールドアスレチックの利用者）。
 - 魅力ある木工体験メニューの実施
 - む・う・ぶを利用した木工体験に「木育※」の要素を加え試行していく。木のおもちゃ等のもの創り、木と触れ合う遊び等を取り入れていく。
 - ※木育とは、幼児期からの原体験として木とのふれあいを指導し深めることで、木材や森への愛着をもつ人づくりを目指すプログラム。
 - 森の案内人のスキルアップ
 - ・ 案内人研修の参加者、案内人への登録者が少ない。
 - 「村山地域森のようちえん連絡会」や大学等と連携し、参加者を募集する。

やまがた緑環境税を活用した取組み

【平成 27 年度里山の森づくりサポーター育成事業の取組事例】

里山の森づくりサポーター育成事業

研修内容：森林に関する基礎知識



研修内容：森林案内の実践スキル



日時：平成 27 年 6 月 20 日（土）

場所：山辺町畑谷地内 県民の森



研修内容：安全管理・応急手当



研修内容：木エクラフト

日時：平成 27 年 6 月 21 日（日）場所：山辺町畑谷地内 県民の森

多様化する県民の森利用者の要望に対応できる体制を構築し、施設内の案内及び体験活動などを支援する指導者「県民の森・森の案内人」を新たに養成するため、森の案内に必要な知識・技能に関する研修会を開催したところ、県民の森周辺市町から森での活動に興味のある県民が参加し、3名の新たな「森の案内人」が誕生した。

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築	NO	2-9-2
事業名	最上の自然環境教育マスター養成事業		
事業費	350 千円	担当部局課	最上総合支庁 森林整備課

1 目的

- ① 多様化する自然環境教育活動の指導者の養成
- ② 若年層の人材育成による指導者層の充実
- ③ 高齢者の経験と智恵を活かし、次世代に引き継ぐ担い手の育成

2 事業概要

① 「養成講座」の開催

- ・ 春、秋、冬の年3回。春、秋は各2日、冬は1日の講座を開催する。

場 所：山形県遊学の森(金山町)

対象者：一般県民で自然環境教育に関心がある方

受講者：春の講座 6月27、28日開催 17名参加。

秋の講座 11月7、8日開催 14名参加。

冬の講座 H28年2月20日開催 18名参加。

- ・ 養成講座終了後に、自然環境教育マスターとしての自覚を促すため「森のマスター養成講座修了証」を発行した(冬の部は除く)。今後の活動につなげるため「遊学の森“森の案内人”」への登録を依頼する。
- ・ 登録者には、遊学の森で開催される自然環境教育、森づくり活動の案内や情報の提供を行っていく。

② 養成講座に関する普及啓発の実施

- ・ チラシ等による普及啓発
多くの方々から養成講座に参加していただくため、開催趣旨と講座の内容についてチラシ等により一般県民へ広く周知を図った。
- ・ みどり環境公募事業実施団体及び教育機関等への周知
森づくり活動の活性化を図るため、当講座への参加を周知した。また、次世代の指導者を目指す高校生や大学生などへ積極的な周知を図った。

3 成果と課題

① 成果

- ・ 養成講座の開催により6名の方が新たに遊学の森「森の案内人」として登録し、指導者数は着実に増加している。
- ・ 懸案であった若い方の参加については高校生の参加があるなど、一定の成果があった。

② 課題

- ・ 参加者アンケートからは講座内容については概ね好評であるが、PR不足との指摘がある。特に若者への周知として、今後はホームページやSNS等の活用を検討する必要がある。
- ・ 新たに森の案内人として登録された方々が、自ら先頭に立って案内人としての活動できる環境整備を行っていく必要がある。

やまがた緑環境税を活用した取組み

【最上の自然環境教育マスター養成事業の取組事例】



ネイチャーゲーム活用講座（春の部）



野外活動における緊急処置法（春の部）



森を巡る講座（秋の部）



森林の生態を学ぶ（秋の部）



冬の里山観察方法（冬の部）



雪の性質を学ぶ（冬の部）

自然環境教育指導者を養成する講座を、春（6月）、秋（11月）、冬（2月）の3回、金山町：遊学の森で開催した。参加者は合計49名。高校生から70代まで幅広い年齢層の方に足を運んでいただいた。春と秋の講座では動植物の基礎知識、ネイチャーゲームの活用法、野外活動における緊急処置法などを学び、冬の講座では冬の里山観察法や雪の性質について学んだ。

項 目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築	NO	2-9-3
-----	------------------------	----	-------

事業名	みんな一緒に森林活動フィールド振興事業		
事業費	145 千円	担当部局課	置賜総合支庁福祉課

1 目的

- ① 障がい者が身近に気軽に森林体験活動のできる森林活動フィールドが、高齢者や児童に対象を広げて応用できることを実証する。
- ② 障がい者、高齢者、児童の交流を通じて、障がい者に対する意識の変革を中心とした相乗効果を図る。
- ③ 障がい者がより安心して森林体験活動を行うことができるように、地域の森林団体等のスキルアップと経験の充実を図る。

2 事業概要

- ・ 森林ボランティア団体等と障がい者、高齢者、児童による森林体験活動を行う。
- ・ 森林ボランティア団体等を対象に、森林環境において介助案内をスムーズに行うための研修を実施する。

3 成果と課題

【成果】

- ・ 2回実施した森林体験活動を通じて、これまで掘り起こした森林活動フィールドが、高齢者や児童に対象を広げても応用できることを実証できた。
- ・ 幅広い年齢の参加者を得て、相互理解を図ることができた。
また、児童や高齢者の介助案内の方法について理解を深めた。
- ・ 屋外での実地研修を通じて、実際の介助案内の難しさを理解できた。
また、実際の森林体験活動における注意点について理解することができた。

【課題と対応】

- ・ より多くの森林ボランティア団体等が、森林環境における介助案内の方法についての理解を深めることができるよう、引き続き研修を実施していく必要がある。
- ・ 森林体験活動フィールドを地域への浸透を図るとともに、より多くの障がい者、高齢者、児童の交流が深まるよう森林体験活動を継続して実施していく必要がある。

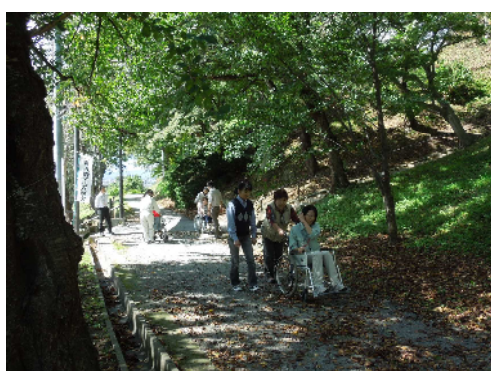
やまがた緑環境税を活用した取組み

【平成27年度みんな一緒に森林活動フィールド振興事業の取組事例】

- 1 介助案内研修・・・9/29 えくぼプラザ（南陽市）で開催
・屋内での講義及び基礎研修



- ・屋外での実地研修



- 2 森林体験活動・・・10/8、10/15の2回開催
・10/8 西向沼（米沢市）で実施



- ・10/15 蛭沢湖（高畠町）



- 3 検討会議開催・・・3/2 今年度事業の振り返りとそれを踏まえた来年度の検討会を開催

項 目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築	NO	2-9-4
-----	------------------------	----	-------

事業名	おきたま森林・自然環境学習推進事業		
事業費	505 千円	担当部局課	置賜総合支庁 森林整備課

1 目 的

- ・ 源流の森における森づくり活動などの支援を行う人材（源流の森「森の案内人」）の養成。
- ・ 企業や団体及び一般県民が気軽に参加できる森づくりを推進するため、源流の森内における森づくり活動の条件整備。

2 事業概要

源流の森の新たな森づくり活動推進事業（継続）

○ 源流の森「森の案内人」養成講座の開催。

- ・ 2日間の総合講座を1回（6月）、1日間の総合講座を2回（9月・10月）開催する。

場所： 山形県源流の森（飯豊町）

対象者： 森づくり活動などに興味があり、源流の森にてボランティア活動が可能な方。

養成講座終了後に「修了書」を交付するとともに、「源流の森案内人」への登録を依頼。登録者には、源流の森で開催される自然環境学習や森づくり活動のサポートなどで活躍していただく。

○ 源流の森内の森林で、企業や団体、一般県民を対象とした植栽や刈払い、枝打ちなどの森づくり活動を実施するための活動の支援。

- ・ 植栽箇所の整備（地拵え）

3 成果と課題

成果

「森の案内人」養成講座については総合講座と専門講座の実施により11名の案内人が誕生

源流の森の約180haの県有森林の有効活用

課題

○ 森林自然学習、森づくり活動への更なるサポート体制の充実

○ 県民が気軽に、継続的に森づくり活動に参加出来るフィールド整備・体制づくり

○ やまがた絆の森協定後の森づくりや企業の森づくり活動等への誘導

源流の森の活用に向けてのPRの推進

やまがた緑環境税を活用した取組み

【平成27年度おきたま森林・自然環境学習推進事業の取組事例】

源流の森の新たな森づくり活動推進事業

飯豊町 源流の森



源流の森での森づくり活動などの支援を行う人材（源流の森「森の案内人」）を養成するため、2日間の総合講座を開催し、1日間の2回の専門講座を開催予定。自然環境への理解や、ネイチャーゲーム、野外活動における救急処置法などを学んだ。

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わり構築	NO	2-9-5
事業名	出羽庄内公益の森づくり事業		
事業費	599	担当部局課	庄内総合支庁森林整備課

1 目的

庄内砂丘の海岸林は、厳しい自然との共生の中で培ってきた大いなる遺産であるが、現在、手入れ不足や伝染病である松くい虫被害、さらには、外来種であるニセアカシアの繁殖の脅威にさらされている。この海岸林を、多様な主体の協働により保全し、健全な状態で後世に引き継ぐことを目的とし、下記の活動を実施した。

- ① 多様な主体の協働による海岸林の保全
- ② 住民参加の森づくり運動の推進と人材の育成

2 事業概要

- ① 多様な主体の協働による海岸林の保全

・出羽庄内公益の森づくりを考える会の開催…2回

海岸林は、民有林と国有林、普通林と制限林(保安林や自然公園等)、市町の行政区界などの複雑な境界線が多く引かれ、管理主体や関係法律も多様である。

この「考える会」では、関係する多様な主体(行政団体、教育機関、林業関係団体、住民団体等)がネットワークを組み、課題を共有し、統一した方針のもとに連携して、協働による砂丘林の保全活動を実施するために、情報・意見交換の場として開催した。

- ② 住民参加の森づくり運動の推進と人材の育成

・森林ボランティア活動の支援…20回

光ヶ丘森林整備ボランティア、砂防林を育てよう森林整備ボランティア等の活動の企画・運営を行うとともに、各種団体や企業による森づくり活動への技術・安全管理指導と機材の貸し出し等の支援を行った。

・ボランティアリーダーの育成…2回

森林ボランティア活動において、技術・安全管理等の指導的役割を担う人材を養成するための研修を実施した。

1回目:「松くい虫の生態や松枯れのしくみ及びその予防・駆除等の防除対策について」

2回目:「伐採・集材・搬出作業にかかる安全管理とチェーンソー目立て方法について」

・森林環境教育の支援…60回

「地域ふれあい講座」等による海岸林の普及啓発、学習活動の支援として、保育園から高校にいたる各種学校等からの要請を受けて「庄内砂丘林について」等の講話による座学や、枝打ち刈払い等現地での森林整備等の体験活動作業に対する指導、ネイチャーゲーム等による森林環境教育等を行った。

3 成果と課題

【成果】

- 「森づくりを考える会」の継続開催により、多様な団体・機関のネットワークの強化が図られた。
- 森林環境教育やボランティア活動への支援要請に対応できるスタッフ体制強化に取り組んだ結果、実施回数が増大につながり、着実に住民参加の森づくり運動の推進に結びついた。

【課題・対応】

- 現在も松くい虫被害が激増するなど海岸林を取り巻く環境は、依然厳しい状況にある。
- 地域住民等と連携した森林環境教育の推進及び地域に根ざした保全活動の展開に取り組む、海岸林の重要性について一層の普及啓発を図り、多様な主体の協働による保全活動を展開する。

やまがた緑県民税を活用した取組み 【平成27年度出羽庄内公益の森づくり事業の取組み事例】

① 多様な主体の協働による海岸林の保全

【出羽庄内公益の森づくりを考える会の開催】 協働による海岸林の保全のための意見情報交換:2回



② 住民参加の森づくり運動の推進と人材の育成

【森林ボランティア活動の支援】 20回
ボランティア活動の企画・運営、現地指導等



【ボランティアリーダーの育成】 2回
ボランティア活動における指導的人材の養成研修
研修名:「松枯れのしくみと防除について」



【森林環境教育の支援】 海岸林に関する講話、森林整備体験活動の指導等の実施:60回

